

NFD 西白杵消防だより

第10号



令和4年3月

//////////////////// 2021年度 全国統一防火標語 //////////////////////

「おうち時間 家族で点検 火の始末」





私たちの生活にかかせない存在となっている電化製品ですが、使い方を誤ると火災の原因となってしまうこともあります。今回は、全国で年々増加傾向にある電子レンジ火災について掲載します。

そもそも電子レンジはなぜ物を温めることができるのか

電子レンジには、マグネトロンという電子管が装着されており、そこからマイクロ波という電磁波を発生させます。このマイクロ波は食べ物などにある**水分子を振動させ、摩擦熱を生じさせて熱を発生させます**。なので、水を全く含まない物は理論上、電子レンジでは温かくなりません。しかし、マイクロ波は水分子だけでなく**電子も刺激してしまします**。電子レンジ使用時に電力が強い場合、アルミホイルなど薄い金属などはそれに含まれる電子が活発に動き、ホイルの尖った部分に集中し飛び出すことがあります。それが火花となっているのが庫外からも観察されます。

どうして火災になるのか？

東京消防庁の再現実験によると、食品などを電子レンジで加熱し続けると、水分が蒸発し、食品は可燃性ガスを発生しながら「炭化」（酸素不十分な状態での加熱により炭素化合物が分解し、炭素が多い固体が残ること）が進みます。その後レンジ内に溜まった可燃性ガスに**帯電した炭化物から火花が飛び、爆発を起こすことが確認されています**。

何をどのくらい加熱すると起こる？

東京消防庁の実験によると、700ワットの電子レンジで実験したところ、さつま芋（焼き芋）120グラムは6分26秒、さつま芋（生）170グラムは11分30秒、肉まん90グラムは5分34秒、あんまん110グラムは7分37秒で出火しています。



食品の種類	重さ	出火までの時間
さつま芋（焼き芋）	120g	6分26秒
さつま芋（生）	170g	11分30秒
中華まん（肉まん）	90g	5分34秒
中華まん（あんまん）	110g	7分37秒

出火後に慌てて電子レンジの扉を開けて、服に着火し死亡した例もある事から、**むやみにレンジの扉を開けないよう（爆発で扉が開いている場合はそのまま）にして、可能であれば運転停止ボタンで停止させ、コンセントやブレーカーで電源を遮断してください**。そのまま観察をしつつ、**消火器などを準備し、燃焼が庫外に拡大した場合の準備をしてください**。また、このような火災があったときは**消防署へ119番通報**をお願いします。



消防長査閲訓練

年に一度の消防署行事の一つ「消防長査閲訓練」が令和3年10月15日に行われました。日高消防長の見守る中、各隊が訓練を実施し、日頃の成果を披露する場です。消火、救助、救急とあらゆる想定を取り入れつつ災害対応訓練を行いました。消防長点検の後に第2係の低所救助訓練、第1係の消火訓練、第3係の引き上げ救助訓練を行い、最後に消防長より講評を受けました。日頃の訓練の積み重ねで実災害にも対応できる技術とチームワークを培っています。



インターンシップ

高千穂高校経営情報科2年生の3名と普通科1年生の1名が西白杵広域消防本部でのインターンシップを実施しました。4名とも資器材の取り扱い等真剣に行っていました。



▲放水する下川さん



▲ロープ整理する田上君



▲梯子を搬送する佐藤君と興梶君

⚠️ リチウムイオンバッテリーの取扱に注意

スマートフォンは私たちの生活必需品となってきましたが、使用するには充電器や、バッテリーが必要です。

補助的にモバイルバッテリーをバッグなどに入れて持ち運ぶ人も多いと思われませんが、普及すると共にリチウムイオン電池関連から出火した火災は年々増加傾向にあります。リチウムイオン電池に使用される電解液は危険物第4類第2石油類で、軽油や灯油と同じような性質を持っています。そしてリチウムも危険物第3類の禁水性物質で、

水に触れると激しく反応し水素も発生する物質です。リチウムイオンバッテリーはそれら二つの危険物が入っていますので十分に注意して取り扱う必要があります。破損が見られたり、膨張した物を使用しないのは勿論、水に濡らしたり、焼却したり、高温状態の車の中に置きっぱなしにしたりしないようにお願いします。



火災を防ぐには？

- 取扱説明書等で使用方法を確認して、長時間の加熱をしない。
- 加熱しているときにその場を離れない。
- 電子レンジの周囲に燃えやすい物を置かない。
- 冷凍食品などは、表示されている電力と加熱時間を守る。

以上のことに注意して安全に使用してください。

春の火災予防運動

春の火災予防運動が3月1日から3月7日までの1週間実施されます。火災予防運動とは、毎年、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、春と秋の年2回開催する、火災の発生を防止することを目的とした運動のことを言います。「消防記念日」である3月7日までの1週間に行われる春の運動と、「消防の日」である11月9日から1週間行われる秋の運動があります。まだまだ気温も低く室内で火を使用する機会も多く、また、屋外でも野焼きや火入れを行う事が多いかと思われますので、くれぐれも火の取扱いにはご注意ください。



表彰

消防第2係隊長の甲斐猛司令補が県知事表彰、総務課総務係長の市川浩孝司令補が永年勤続表彰(20年)をそれぞれ受賞しました。

災害ベンダー設置

西臼杵広域消防本部庁舎内に食品の災害ベンダーを設置しました。今までも、飲料の災害ベンダーが設置されておりましたが、新たに長期保存が可能な食品を販売する災害ベンダーを設置しました。大規模な災害時に、業者の許可があれば無料でベンダー内にある商品を提供できます。勿論、平常時は、どなたでも購入可能です。既存の飲料ベンダーについても同じなのですが、庁舎内のベンダーで販売された金額の一部はみやざき被害者支援センターへ寄附されます。食品ベンダーの商品は、カップラーメンやパン、バームクーヘン、プロテインバーなど取りそろえています。



▲ 庁舎入口付近に設置された災害ベンダー



厳しい訓練後に訪れるつかの間の癒やしの時間。災害のプロとしてしっかり栄養を取ることも重要です。「消防署ではどんな料理をしているの?」そんな疑問にお答えします!

消防第3係 田中しえんしえーのよだれ鶏(NFD ver.)

料理の特徴: 郭沫若(かくまつじゃく)の著書にもあるように本来四川料理である「よだれ鶏」は茹で鶏の料理ですが、田中しえんしえーは衛生的観点から肉の中までしっかりと火を通すために改良を重ねた結果、揚げるとい調理法に至ったようです。片栗粉で揚げた鶏もも肉と、鶏ガラスープ、食べるラー油、ポン酢、砂糖等を使用したピリ辛のタレが相性抜群の一品です。

しえんしえーの一言: このメニューは、隊員からの評判も良く月一で作ります。今後も試行錯誤し、他の料理でも、つかの間の「美味しい」を提供したいです。

工藤隊長からの一言: 何に対しても向上心に満ちあふれている田中シェフが作るよだれ鶏は、バリエーションが豊富で、時には悪魔のような辛さを、時には天使のようなまろやかさで隊員達の胃袋を満足させています。

